

とちぎの親子を笑顔にするヒント



～栃木県の家庭教育支援実態調査から～

子どもたちが生活している家庭は様々です。家族構成も、親の仕事も、経済状態も生活の仕方、全く多様です。しかし、どんな家庭でも、子どもは自分の生まれた家庭を取り替えることができません。子どもは、人生において最も大切な乳幼児期から青年期までに、家庭の影響をたっぷり受けて育ちます。

子どもは一人では育ちません。一人親でも、両親そろっていても、家族の中だけではうまく育ちません。友達や祖父母や近所の人々、保育士や先生など、性や年齢や性格や特徴の異なる様々な人とかかわる中で、言葉や知識、運動能力や人とかかわる力など様々な能力を身に付け、豊かに育つことができます。

親もまた同じです。子どもが豊かに育つ環境が必要なように、親もまた多くの子育ての友達や先輩、専門家などたくさんの人とかわる中で、子どもを育てる力を身に付けることができます。市町の家庭教育担当者や子育て支援者は、親や子が多くの人とふれあいながら豊かな体験ができるよう、たくさんのつながりの場を用意してほしいと思います。



宇都宮共和大学
特任教授 牧野 カツコ

豊かな体験を家庭に提供するために・・・

家庭教育オピニオンリーダーは、研修を終了した人たちが家庭教育支援の指導者として、それぞれの地域で、親子がふれあいながら体験する活動を実施したり、子育てに関する相談に乗ったりして、豊かな体験やつながりの場を親や子どもに提供しています。また、学習会を開いて自分たちの学びを深めている、身近な頼れる存在です。

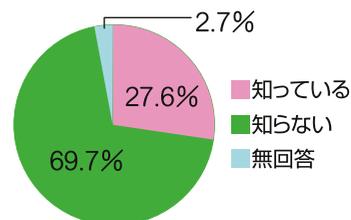
家庭教育オピニオンリーダーの活動の様子



ある家庭教育オピニオンリーダーのつぶやき

私たちは、それぞれの市町の生涯学習課等と関わりながら、「子育て講座」「親子ふれあいサロン」「おやつ作り教室」などの様々な活動をしています。私たちの活動にもっと多くの親子に参加してもらうために、家庭教育担当の方に留まらず、学校教育や保育の関係者にも、活動の内容を理解してほしいと思っています。それにより、学校や幼稚園、保育園を含めて、私たちの活躍の場が広がり、たくさんの親子を笑顔にできると思います。

右のグラフの「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会を知っているか」を聞いたアンケート結果によると、知っている人は多くありません。しかし、保護者や教職員が家庭教育オピニオンリーダーの活動に関心を持ち、つながることができれば、家庭教育支援はより充実していくでしょう。



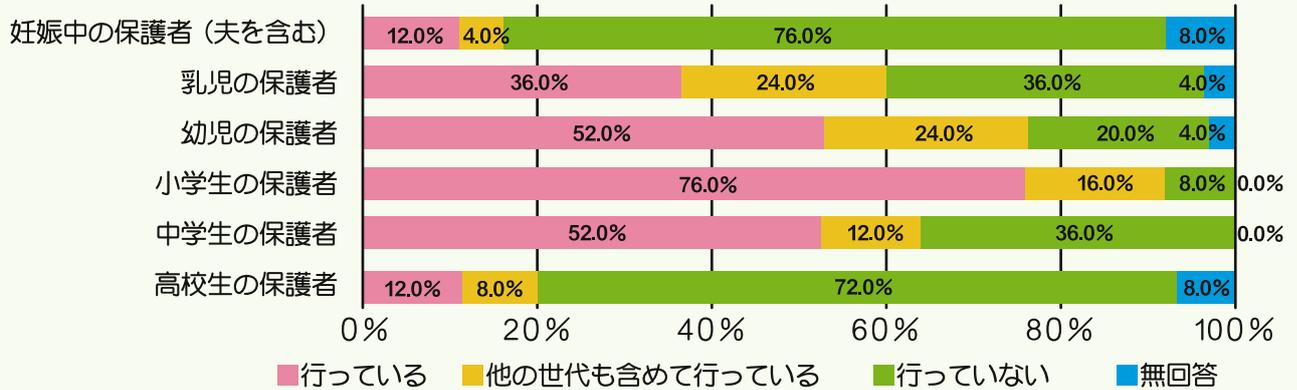
栃木県総合教育センターでは、家庭教育支援に関する学びの充実を図る目的で、その実態を把握するため、県内7地区全てで実施されているPTA指導者研修で、保護者と教職員約1000人にアンケート調査を行うとともに、県内全ての市町の生涯学習主管課に家庭教育支援関連の事業について、アンケートやヒアリング調査を行いました。リーフレットに掲載しているデータは、その調査をまとめたものからの抜粋です。

調査から見えてきた課題

県内市町生涯学習主管課が行っている家庭教育支援に関する学習機会や特色ある事業、その課題などについて、アンケートやヒアリング調査を行い、全市町から回答をいただきました。調査を進めていくと、大きく3つの課題が浮き上がってきました。

県内市町家庭教育担当者へのアンケート調査から

子どもの年代別 保護者への学習機会の提供状況



子どもの年代により、保護者向けの学習機会に偏りがある。

課題

切れ目のない家庭教育支援（どんな世代にも…どんな人にも…どんなケースにも…）という視点で、学びの機会を提供するためにはどうするか？

家庭教育担当者の声から ~アンケート自由記述およびヒアリング調査より~

学校や子育て支援部局、保健機関等との連携が必要と感じている。

実際に学んでもらいたい人（「時間の都合をつけづらい人」「関心が薄い人」「男性」…など）が参加をしていなかったり、事業を行っても参加率が低かったりする。



課題

学んでもらいたい人に学びの機会を提供するためにはどうするか？

もっと、新規の参加者を増やしたい。参加者が限られ、固定的になっている。

課題

新規の参加者を増やすためにはどうするか？

調査結果の詳しい内容を知りたい方は、「とちぎレインボーネット」を検索して、「家庭教育支援に関する実態調査」にアクセスしてね！



市町、公民館等の家庭教育担当者へのヒント

調査から見てきた課題を解決するためのヒントを、実践事例から探っていきましょう！

教育委員会と関わりの薄い年代こそ他との連携を!



【那須塩原市教委生涯学習課の取組】

母親学級における健康増進課との連携

- ・健康増進課が妊娠期から行っている「母親学級」に、生涯学習課で「親学習プログラム」の実施を提案
- ・家庭教育オピニオンリーダーがファシリテーターとしてプログラムを展開
- ・親が妊娠から出産、子育て期を通して広い視野で、今後のライフステージをイメージするきっかけづくりとなるなど、連携による学びの充実
- ・「周りに相談相手がないので話せて良かった」等参加者の声



妊娠期の家庭に
学びの機会を
提供したい

講座を持つ
健康増進課と
連携!

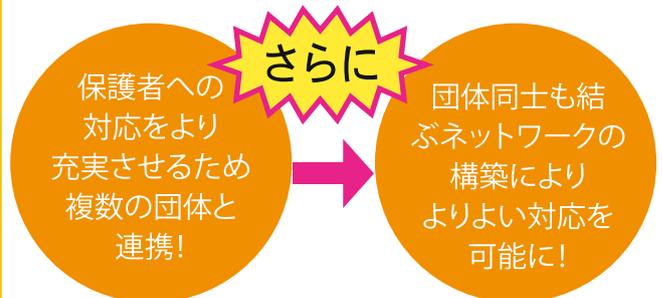
連携の相乗効果を生むネットワークづくりを!



【さくら市教委生涯学習課の取組】

“連携の重なりが生む”発達障害のある子を持つ保護者からの相談での充実した対応

- ・行政が社会福祉協議会とNPOに声をかけて、ネットワークづくり
- ・同じ悩みを持つ保護者の情報交換や仲間づくりの場、孤立しがちな保護者の居場所づくり
- ・学校教育課やスクールソーシャルワーカーとの連携により、問題の早期発見・対応



学んでもらいたい人がいるところに出向く!



【壬生町教委生涯学習課の取組】

学童野球の抽選会での講座の実施

- ・男性が多く参加している学童野球の抽選会などの、地域団体が行っている研修会等を活用して講座を企画・実施
- ・講座を土曜日や夜間に開催するなどの工夫



男性に
学びの機会を
提供したい

男性が集まる
場所へ出向いて
講座!

親しい仲間と参加できる学びの機会の設定を!



【宇都宮市豊郷生涯学習センターの取組】

夫婦で参加できる講座の工夫～イクメン応援講座

- ・父親と子どもで遊ぶ講座、母親はリフレッシュや学びの講座等、夫婦で参加できる内容
- ・参加者が活動しながら、保健師や相談員に悩みを相談できる環境
- ・参加する父親同士のネットワークも構築!



学びへの1歩
目を踏み出し
やすくしたい

連れだって
参加できる
講座!

PTA研修の企画担当者へのヒント

PTAは、保護者と教職員が協力して、学校教育および家庭教育に理解を深め、それらの振興に努め、会員相互の学習、その他必要な活動を行う社会教育団体です。より効果的な研修に向けて、計画を立てる前に、内容や方法について考えてみましょう。

子育てに関して学んでみたいこと〔保護者・教職員別〕

順位	保護者		教職員	
	テーマ	%	テーマ	%
1	子どものほめ方、叱り方	42.1	スマートフォン、ゲーム機器等	35.4
2	思春期の子どもとの向き合い方	39.7	親の役割	34.8
3	親の役割	33.2	子どものほめ方、叱り方	34.1
4	進路について	23.8	思春期の子どもとの向き合い方	26.2

保護者と教職員の思いがそれぞれあることが分かるね。まずは、保護者と教職員が十分に話し合ってテーマを決めることが大切だね。



テーマが決まれば、場所や参加する人数などを考えながら学習方法を決めていきます。様々な方法がありますが、栃木県では「親学習プログラム」を使って、保護者同士が身近なエピソードをもとにワークに取り組み、話し合い交流しながら主体的に学ぶ参加型体験学習を推進しています。ここでは、参加者が自分の問題に気づいたり、他の人の考えを聞く中で自分自身の考えを整理したりすることができ、行動が変わるきっかけになっています。また、子どもに関する共通の話題によって親近感も生まれ、今後も相談し合えるような仲間づくりにもなっています。



高校でも「親学習プログラム」を取り入れて、効果を上げている事例を紹介するよ!

鹿沼東高等学校第1学年PTA学習会での実践 ～我が子は青春真っ只中!～

簡単なゲームや自己紹介から和やかな雰囲気になったところで、話し合い活動がスタート!自分たちの思春期の頃を振り返るとともに、最近の子どもとのコミュニケーションについて悩んでいることなどをグループの仲間と共有し、解決に向けての方法などを考えました。



=参加者の感想=

- 他の方の悩みを聞き、同じ思いであることが分かってよかった。
- たわいのないおしゃべりから、“なるほど”や“そうなんだ”という気づきがあった。
- 保護者が集まる機会が少ないので、同学年の子の親御さんと話す機会をもつことができてよかった。
- 短い時間だったが、分かりやすく、親しみやすく、楽しく共感できる時間を持つことができた。子育てに時々不安になることもあるが、前向きにとらえようと思えるようになった。



家庭教育支援に関する栃木県の施策については
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m06/education/shougai/suishinjigyoku/katei.html>

「親学習プログラム」をはじめ、家庭教育支援に関する学習については、各教育事務所のふれあい学習課または総合教育センター生涯学習部にお問い合わせください。

「アン」「シン」は、
 栃木県総合教育センターの
 マスコットキャラクターです!



栃木県総合教育センター 生涯学習部
 平成30(2018)年3月

電話:028-665-7206 Fax:028-665-7219
 E-mail:shogai-c@tochigi-edu.ed.jp